

令和 7 年度シラバス (公民)

学番 34 新潟県立長岡向陵高等学校

教科(科目)	公民(公共)	単位数	2 単位	学年(類型)	2 学年(必修)
使用教科書	実教出版『詳述 公共』				
副教材等	実教出版『ズームアップ 公共資料』、啓隆社『新 公共 研究ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる能力を育成します。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい態度を育成します。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい心を持つ姿勢を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①選抜性の高い大学や専門学校受験に対応できる教科・科目を重点的に配置し、1・2 学年では全員が共通の教科・科目により、広く基礎的な知識・技能を学びます。3 学年では大学文系・理系選択を主とした選択科目により、個々の進路目標や興味・関心に合わせて学びます。 ②授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの充実と探究的な学びの実現に向け、ICT を積極的に活用し、学習評価の妥当性・信頼性をより一層高めるなど、不断の授業改善を行います。 ③「総合的な探究の時間」では、各教科学習で身に付けた知識・技能等を活かし、課題発見・解決力の育成を主とした地域探究活動を行います。思考力や判断力・表現力、情報活用・プレゼンテーション能力等も育成し、自己の将来の在り方生き方の確立に関連付けます。 ④学校行事や部活動では、安全安心な環境整備に努め、生徒の主体的な活動を支援するとともに、多様性を尊重し他者と協働して対処していく力を育てます。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--

3 指導の重点

①基礎的・基本的な知識の理解と定着を目指す。(知識・技能) ②現代の日本の政治状況および国際政治動向の諸課題について関心を高め、人権と平和を尊重し擁護する意義を理解させるとともに、政治に関する基本的な見方や考え方を身につけさせる。(知識・技能および思考・判断・表現) ③現代の日本経済状況および国際経済動向の諸課題について関心を高め、市場を通じた資源の効率的な配分についての理解を深めるとともに、各種統計データを活用して、経済に関する基本的な見方や考え方を身につけさせる。(知識・技能および思考・判断・表現) ④現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚などを深める(主体的に学習に取り組む) ⑤大学進学等を目標にした発展的な学習も取り入れ、応用力の育成を目指す。(知識・技能および思考・判断・表現)
--

4 評価の観点の趣旨

評価は次の観点から行います。		
知識及び技能 (40%)	思考力・判断力・表現力 (40%)	主体的に学習に取り組む態度 (20%)
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能が身についている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力が身についている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識及び技能 (40%)	思考力・判断力・表現力 (40%)	主体的に学習に取り組む態度 (20%)
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など) ・授業ノートやレポート課題など提出物の内容 ・授業内小テスト ・定期テスト	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など) ・授業ノートやレポート課題など提出物の内容 ・授業内小テスト ・定期テスト	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など) ・授業ノートやレポート課題など提出物の内容 などから、総合的に評価します。
	などから、総合的に評価します。 内容のまとめりごとに、各観点 A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動	時間	評価方法
4	社会を作る私たち	生涯における青年期の意義 青年期と自己形成の課題 職業生活と社会参加 現代社会と現代の生き方	人生における青年期の特徴と意義を理解するとともに、青年期において直面する葛藤や欲求不満などの困難とその対処法を理解する。また、社会の中で自立した自己を形成するために、パーソナリティの理論や青年期の発達課題を理解する。 働くことの意義と社会参加の意義を理解する。そのうえで、望ましい社会のあり方と自己の生き方との関連について考える。 日本人の伝統的な考え方や人間関係の特徴について理解するとともに、国際社会で生きるために、日本人が身につけるべき態度と能力を考える。	4	定期考査 授業での 発言・取組 授業内小テスト ノート・ワーク等提出

	人間として よく生きる	ギリシアの思想 宗教の教え	理想的な人間の生き方についてのソクラテス、プラトン、ア リストテレスの主張を理解する。 世界三大宗教のそれぞれの特徴を理解し、各宗教が説いた、 人間の生き方や社会のあり方について理解する	2	
5 6	社会とは何 か	人間の尊厳と平等 自由・権利と責任・義務	人間の尊厳や平等といった原理の背景にある考え方を理解 するとともに、差別や偏見を是正するための取り組みやその 背景にある考え方を理解する。 個人の自由や権利がどのように認められるのかを理解する とともに、自由・権利と責任・義務の関係が将来世代の問題 としても考えられることを理解する	2	定期考査 授業での 発言・取組
	民主国家に おける基本 原理	人権保障の発達と民主政治の 成立 国民主権と民主政治の発展 人間の尊重 個人と社会 主体性の確立 他者の尊重 公正な社会	民主政治の誕生と発展ならびに基本的人権の歴史的発展に ついて理解する。 民主主義の意義と課題について理解するとともに、議院内閣 制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解す る。 中世末期から近代初期のヨーロッパで生まれた新しい人間 観や世界観を理解するとともに、 ・自由についてのカントとヘーゲルの主張 ・社会の改良や改革を唱えた、功利主義と社会主義の主張 ・実存主義の思想家たちの人間観 ・主体性の確立についての思想家たちの主張 ・他者について思索した思想家たちの主張 ・公共性の確立について思索した思想家たちの主張 について理解する ○1 学期期末考査	9	授業内小テ スト ノート・ワ ーク等提出
7 8 9	日本国憲法 の基本的性 格	日本国憲法の成立 平和主義とわが国の安全 基本的人権の保障 人権の広がり	大日本帝国憲法と日本国憲法の特徴と相違点について理解 する。 憲法の最高法規性について理解する。 日本の安全保障政策の展開について理解する。 こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 日本国憲法が保障する基本的人権について理解する 人権に関する現実社会の課題について理解する 新しい人権について理解する。 公共の福祉について理解する。	7	定期考査 授業での 発言・取組 授業内小テ スト
	日本の政治 機構と政治 参加	政治機構と国民生活 人権保障と裁判所 地方自治 選挙と政党 政治参加と世論	国会と内閣の構成について理解する。 官主導社会とその課題について理解する。 司法権の独立や裁判について理解する。 裁判員制度や検察審査会について理解する。 地方自治の本旨について理解する。 戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 各選挙制度の特徴と課題について理解する。 日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ○2 学期中間考査	7	ノート・ワ ーク等提出

10 11	現代の経済 社会	経済社会の形成と変容 市場のしくみ 現代の企業 経済成長と景気変動 金融機関の働き 政府の役割と財政・租税	資本主義社会が成立、発展してきた時代背景を確認する。 政府の規模を念頭にして、経済的な課題への対応を考える。 市場経済の機能と限界を理解する。 市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。 生産の主体である企業の形態や活動、株式会社の特色、グローバル化による企業の経営環境の変化や課題などについて理解する。 国家の経済活動の規模をあらわし、経済の動きの指標としてのGDP、国富について理解するとともに、経済成長、景気循環、物価について理解する。 現代の経済社会における金融の意義や役割を理解するとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各金融機関の役割を理解する 中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。 政府の財政活動の役割、財政政策、租税の仕組みについて理解するとともに、財政に関わる課題について理解する。 ○2学期期末考査	10	定期考査 授業での 発言・取組 授業内小テ スト ノート・ワ ーク等提出
11 12	経済活動の あり方と国 民福祉	日本経済の歩みと近年の課題 中小企業と農業 公害防止と環境保全 消費者問題 労働問題と雇用 社会保障	歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に考える。 人口減少社会が経済に与える影響を考える。 経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える これからの中小企業や農業の姿を考える。 経済成長と公害問題との関係を考える。 持続可能な社会をめざすためのさまざまな制度や取り組みについて理解する 消費者問題には、さまざまな問題があることを理解する。 必要な法整備と消費者の責任について考える。 労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。 日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 日本の社会保障制度を、諸外国の制度との比較も含めて考える 少子高齢化が進行する中で、望ましい制度のあり方を検討する。	10	定期考査 授業での 発言・取組 授業内小テ スト ノート・ワ ーク等提出 定期考査

1	国際政治の 動向と課題	国際社会における政治と法 国家安全保障と国際連合 冷戦終結後の国際政治 軍備競争と軍備縮小 異なる人種・民族との共存 国際平和と日本	国際政治や国際法とはどのようなものか、国内政治や国内法 との比較で考える。 領土問題が生じる背景と望ましい解決方法について考える。 国際連合は、どのような取り組みをおこなってきたか、主要 機関や専門機関の働きから考える。 国際連合は、現在どのような課題を抱えているか、とくに安 保理改革を材料に考える。 冷戦の終結で、国際社会はどのように変化したか、対立構造 の変容から、国際社会の力学の変化を考える。 現在の国際社会は、どのような問題に直面しているか、大国 の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造につ いて考える。 冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを確認する。 国際社会は核軍縮や軍備管理について、どのような問題に直 面しているか、 核兵器禁止条約の採択に向けた動きを参考にして考える。 民族をめぐる対立は、なぜ生じるのだろうか、ナショナリズ ムや自民族中心主義との関係から考える 差別・抑圧、紛争や内戦などの問題を解決するために、国際 社会はどのような取り組みをしているか、さまざまな権利保 障の制度や取り組みについて理解する 戦後の日本とアジア諸国との外交は、どのように展開した か、特にアジア諸地域の信頼回復の経緯を確認する。 国際社会のなかで、日本には何が求められているか、人間の 安全保障の観点から考える。	5	授業での 発言・取組 ノート・ワ ーク等提出 定期考査
	国際経済の 動向と課題	国際経済のしくみ	貿易はなぜ行われているのか、比較生産費説を検討して考え る 貿易の動向はどのように変化してきているのか、貿易収支の 数値から一国の貿易の動向を確認する。 輸出入や国際的な資金移動は、日本経済にどのような影響を もたらしているか、具体的な事例を基にして貿易や為替相 場の動向が日本経済に与える影響を考える。 国際経済体制はどのように変化してきたか、本文や図版資料 を基に、歴史的な経過を確認する。 ドーハラウンドにおける先進国と途上国の対立や、二国間交 渉への傾倒などから課題を考える。 経済のグローバル化によって社会はどのように変容したか、 ヒト・モノ・カネが自由に移動した結果、世界はこれまで 以上に緊密化したことを確認する。 国際的な資本取引の規制やデジタル課税を導入するルール 作りが進められていることを確認する。 地域経済統合は、どのような課題を抱えているか、各地域の 状況や生じている課題を確認する。 新興国の経済成長は、世界経済にどのような影響をもたらし ているか、中国をはじめとする新興国の動向を確認する。 ODA から SDGs につらなる援助と開発の過程について確認す る 今後、貧困の克服のためにはどのような取り組みが必要にな るか、NGO や企業などによる新しい取り組みについて確認 する	5	授業での 発言・取組 ノート・ワ ーク等提出
2 3	持続可能な 社会作りの 主体となる 私たち	課題探究学習	持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりためにはなに が必要か、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、現実社 会の諸課題を探究する。 ○学年末考査	3	

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

定期考査ごとに授業ノートの提出があります。
授業内小テストあり。そのほかは授業で指示します。

8 担当者からの一言

日頃より、新聞・テレビ・書籍などを通じて今日的な話題に興味や関心を持ち、社会で起きている事象についての問題意識を高め、自分なりの考えをまとめましょう。

(担当：如澤 修子)